



自著紹介

『プリンシプル消化器疾患の臨床1  
食道・胃・十二指腸の診療アップデート』

(中山書店、2017年2月)

木下芳一

(島根大学医学部医学科内科学講座内科学第二教授)

上部消化管、下部消化管、胆膵、肝臓のそれぞれの領域を専門領域とする4人の教授が集まって、消化器疾患の専門医が最新の標準的な消化器内科領域の知識に触れることができるような教科書を作成しようと相談して出来上がったのが、この教科書「プリンシプル消化器疾患の臨床」シリーズです。全4巻ですが、最初に完成したのが上部消化管領域の疾患を対象とした本書『食道・胃・十二指腸の診療アップデート』です。本書の大まかな構成は熊本大学の佐々木裕教授、東北大学の下瀬川徹教授、東京医科歯科大学の渡辺守教授と一緒にさせていただきましたが、細かい編集は上部消化管を担当した私が行いました。

まず、本書は消化器領域の専門医を対象として作られています。消化器内科や消化器外科の専門医を取得することを目指している方、すでに

専門医をお持ちの方を対象として作られていますので、専門的で特殊な内容でも最新の知識と技術に関する情報が記載されています。むつかしいところもありますが、本書全体をご覧いただきますと大規模メディカルセンターでの最新医療の内容を理解していただくことができると思います。もちろん執筆は各領域における国内トップレベルの専門医にいただいています。

構成は、まず総論として疾患にかかわりのある上部消化管の病態生理の解説が記載されています。それぞれの臓器の生理機能を理解し、その不調時にどのような病態が起こりうるのかを理解するのに役立つだろうと思います。次いで診療に使われる検査が解説されています。一般的なものだけではなく、high resolution manometryやバロスタット検査、EUS-FNABなどの特殊な最新の検

査も詳しく解説されています。次に治療の部分では複数の疾患の治療に用いられている薬剤だけではなく、内視鏡的な治療や外科治療がまとめられています。最近では内視鏡治療と外科治療の境界が不明確となっており、経口的な内視鏡治療で消化管の筋層を切開するような治療まで行われるようになってきました。そのような治療における最先端の現状を理解いただけたと思います。そして最後に各論として、ほぼすべての上部消化管疾患に関する詳しい解説が記載されています。さらにはミニレクチャーとして、最近話題の口腔内細菌やGNAS mutationの研究成果も解説していただきました。

記載内容は専門医向けですが、カラー印刷と写真が多用されており、わかりやすい紙面となっていますので、一見すると医学生用の教科書に

見えてしまいます。ところが記載内容を読み始めるとそれぞれの領域でトップの方が執筆されていますので、文章がこなれていて大変読みやすい中にもきらりと光る最新知識が埋め込まれているのが分かります。

本書の執筆には私に加えて、島根大学医学部薬理学講座の和田孝一郎教授、島根大学の卒業生で国際医療福祉大学消化器内科の天野祐二教授、島根大学医学部内科学講座第二の石村典久先生、川島耕作先生、やはり島根大学医学部の卒業生の出雲市総合医療センター内科の駒澤慶憲先生にもお願いして、すばらしい解説を執筆いただいています。

島根大学医学部ゆかりの先生方が皆さん協力して作成された専門医向けの教科書です。消化器疾患の診療にたずさわる先生方はぜひ一度手に取っていただければ幸いです。

